そのほか、副理事長には技術移転を専門とするコンサルティング会社CEGIR(モントリオール)の社長マルセル・デジャルダン氏、理事にはビクトリア大学学長ハワード・ベッチ氏、ラバル大学のロドルフ・デコニンク教授、ケベック大学のルイ・サブラン教授、セント・メアリー大学のメアリー・サン女史、前アルバータ州エネルギー大臣ドン・ゲッティ氏、トライロン・ファイナンシャル会社(トロント)の会長アレン・ランバート氏、ユーコン・ファウンデーションの理事長ロルフ・ハウゲン氏などが選任されている。

## ◆◆貿易黒字二百億ドルに
## ◆対日貿易は初めて入超

カナダ統計局の中間報告によると、昨年の商品貿易の黒字は史上初めて二百億ドルの大台に乗った。貿易黒字は、一九八一年には七億三千万ドルであったが、八二年には十七億七千万ドルに急増し、昨年は前年比一七・六六パーセント増の二百八億ドルを記録した。

昨年は輸出が二三・八八パーセント伸びて千百二十五億ドルに、また輸入も二五・三八パーセント増の九十七億ドルに達した。

黒字増大の最大の要因は、林産製品の貿易黒字が前年より二十三億ドルも増えて百四十七億ドルに、エネルギー関連製品の黒字が十一億ドル増の八十七億ドルをマークしたことにある。その他の分野における黒字額は、農産物五十一億ドル、工業製品および工業原料四十八億ドル、自動車製品三十七億ドルなど。機械機器、一般消費財などは、赤字だった。

国別では、対米黒字が百九十八億六千万ドルと圧倒的に大きく、対英黒字が一億九千万ドルだった。これまでカナダ側の黒字が続いていた対日貿易では、輸入(五十五億三千四百八十万ドル)が初めて輸出(五十四億七千四百七十万ドル)を上回った。対日貿易は、輸出入とも大幅に増えたが、輸出の資源産品の価格がゆるんだ一方、日本からの自動車、機械、エレクトロニクス製品の輸入が順調に伸びたため、初めての逆転となった。

州総督の祝福を受けるミラー首相

## ◆◆オンタリオ州の首相に
## ◆ミラー前産業貿易大臣

一九七一年以来、十四年間もオンタリオ州首相の座にあったウイリアム・デービス氏が政界を引退することになり、二月八日、その後任にフランク・ミラー前同州産業貿易大臣が就任した。

ミラー氏は、一九二七年トロント生まれ。マッギル大学の化学科を卒業、自動車販売業などをへて一九七一年に州政界入り。厚生相、資源相、財務担当経済相を歴任したあと、八三年以来産業貿易大臣の地位にあった。自動車摩擦などについて対日関係にも取り組んだことがあり、州政府内有数の知日家。

## ◆新国防相にニールセン氏

ロバート・コーツ国防大臣が二月に辞任したのにともない、マルルーニー首相はエリック・ニールセン副首相を国防相兼任とした。ニールセン氏が兼ねていた枢密院議長の席は、ラモン・ジョン・ナティッシン国務大臣(与党下院院内総務)が兼任することになった。

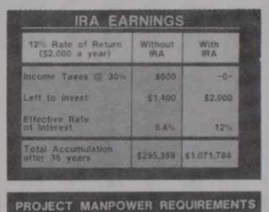
## ◆◆コンピューター・グラフィックス
## ◆トロントの会社が好成績

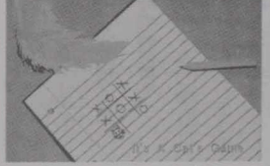
コンピューターでスライドの多色グラフ、表、地図などを製作する会社が好成績をあげている。

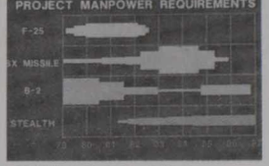
マネジメント・グラフィックス社(トロント)がそれで、一番の目玉はダイヤル・ア・サービス。これは同社のソフトウェアをビジネスまたはパーソナル・コンピューターに乗せて、顧客が自分でスライドを作成するもの。データを電話または郵便で同社のスライド施設グラフファックス・スライド・システムに送ると、多色棒グラフ、線グラフ、円グラフ(パイ図表)、文章、地図などの入ったスライドやトランスパレンシー、またはハードコピーが製作できる。

またPCスライド・ソフトを使うと、ユーザーは製作中のグラフを見ることができる。一枚のスライドに選択できる色彩は六十四種類。

マネジメント・グラフィックス社では、自分でスライドを作ろうとする人のために、カメラなどのハードウェアおよびソフトウェアも製作している。例えば、同社が開発した机上スライド・システムには、電子製図板がついていて、図形の大きさや形を調節できる。線の位置を変えたり、シンボル・マークなどを自由に描くことも可能だ。高感度フイルム・レコーダーによって、一時間に六十枚のスライドが製作できるという。






机上スライド・システムで製作したスライド

## ◆◆障害児童にも通常の教育
## ◆マニトバ州の学校で実施

マニトバ州教育省では、障害児にもできるだけ教育機会を与えようと、〝生活技術計画〟を実施して成功をおさめている。

これは、例えば缶詰のラベルが読めない子には、ラベルを集めさせて、買物に行くときラベルと品物が一致するように教える——というように、障害をもった子供たちの一人一人の必要性に合わせて指導し、また野菜の料理法を教えながら、栄養バランスのとれた食事についても具体的に教える、といった風に、のちのち自立した社会生活ができるようにしようというもの。

生活技術計画を受け入れる学校では、州政府の助成金で車いす用通路やエレベーターをとりつけ、障害児童が自由に教室に出入りできるようにする。生活技術の指導に使われるストーブや冷蔵庫、流し、タイプライターなども、州政府の助成金で購入する。相談員の派遣も、州の負担だ。

モリーン・ヘムフィル州教育大臣は、この計画について、「これらの(障害をもった)子供たちは、隔離されてやるよりも、ほかの子供たちと一緒にやった方がうまくいっている」と述べている。一般の子供たちにも、いい影響を与えているようだ。

**お知らせ**

●広報部では、最近、二種類の背景説明—『カナダの人口動態』と『投資促進法案の概要』—を発行しました。ご入用の方は、広報部宛てお申込み下さい。無料でお送りします。